

製品名: EphA7 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10522**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	112kDa

抗原情報

遺伝子名	EPHA7
別名	EPHA7; EHK3; HEK11; Ephrin type-A receptor 7; EPH homology kinase 3; EHK-3; EPH-like kinase 11; EK11; hEK11
遺伝子 ID	2045.0
SwissProt ID	Q15375
免疫原	抗血清はヒト EPHA7 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 451-500

背景

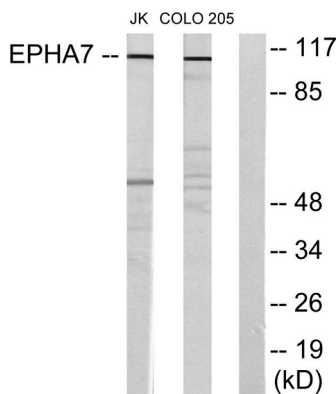
この遺伝子は、タンパク質チロシンキナーゼファミリーのエフリン受容体サブファミリーに属する。EPH および EPH 関連受容体は、

特に神経系において、発達過程の媒介に関与していることが示唆されている。EPHサブファミリーの受容体は、通常、単一のキナーゼドメインと、システインリッチドメインおよび2つのフィブロネクチンタイプIIIリピートを含む細胞外領域を有する。エフリン受容体は、細胞外ドメイン配列の類似性と、エフリンAおよびエフリンBリガンドへの結合親和性に基づいて、2つのグループに分類される。この遺伝子の発現増加は、複数の形態の癌と関連している。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じる。[RefSeq提供、2013年12月],触媒活性: ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシンリン酸。機能: エフリンAファミリーメンバーの受容体。エフリンA1、A2、A3、A4、A5に結合します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。チロシンキナーゼファミリー。エフリン受容体サブファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼドメインを1つ含みます。類似性: SAM (無菌αモチーフ) ドメインを1つ含みます。類似性: フィブロネクチンIII型ドメインを2つ含みます。サブユニット: PRKCABP および GRIP1 と相互作用します。組織特異性: 広く発現しています。,

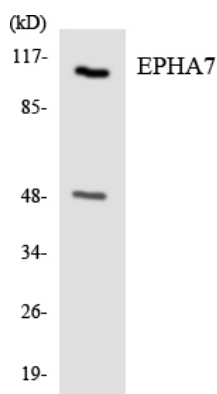
研究分野

軸索ガイダンス;

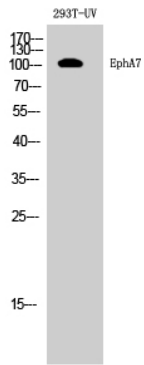
画像データ



EPHA7抗体を用いたJurkat細胞およびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



EPHA7抗体を使用したHeLa細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 500 に希釈した EphA7 ポリクローナル抗体を用いた 293T-UV 細胞のウェスタンブロット解析